

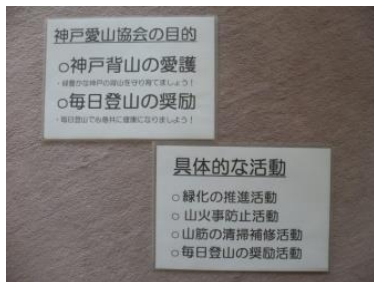
〇7月17日(日)開催 第3192回例会
市民山の会月例会同調

「布引山・夏の散策路を楽しむ」 報告

布引支部 吉野 宏

「神戸市民山の会」は、昭和22年5月、敗戦の憂き目に心の拠り所を失った市民の生活状態を、明るい希望と心身の健康を取り戻さんがために提案された当時の神戸市体育協会長伊藤利勝氏の発案であり、それは、戦前神戸の名物であった「毎朝登山の復活」であった。

もう少し詳しく紐解くと、大正11年12月の暮れに発足した神戸愛山協会は、当時背山で毎朝登山を実践していた主たる登山会の束として誕生した。そしてその活動は年々活況を呈し、神戸の名物となる連合登山や山の祭りなど、毎朝登山会の結束した名物行事となっていた。



愛山協会の目的と活動

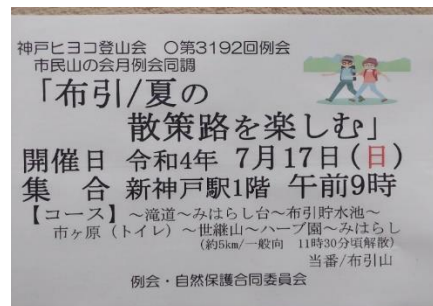
その元気な神戸の市民活動を、何とか復活させたいと願い、愛山協会が束ねていた主たる登山会「高取・摩耶・布引・再度」の各山筋代表者及び山岳連盟の代表、そして神戸市の緑地砂防課長と社会教育課代表の8名で委員会を発足させ検討。その結果、年中毎朝登山に加え、夏季登山期間と月の第三日曜日を月例会として行うことを決定し、昭和23年6月よりスタート。次第に他の山筋「一王山・保久良山・旗振山など」も復活してきてその活動は74年を経た現在にまで至っている。

一方、大正11年10月に誕生した私達の会「神戸ヒヨコ登山会」は、全山筋に支部を持ち、例会への積極的な参加や奉仕活動に従事。又、その多くは山筋にある毎日登山を中心とした登山会にも籍を置かれているため、市民山の会の役員も多く、その行事をサポートするように

なり、ヒヨコの同調例会としても取り入れて応援体制を引き行事を盛上げてきたのである。

「神戸愛山協会」の設立やその主旨については冒頭に記しているが、「神戸ヒヨコ登山会」と共に創立100周年を迎えたことは大変目出度く喜ばしいことだ。

前置きが長くなりましたが、市民山の会の歴史が多少なりともお分かり頂いたところで、今回布引山が当番山筋としてお世話させて頂いた7月例会の報告を記しておきます。



ヒヨコ同調例会P

第889回目となる月例会は「布引山・夏の散策路を楽しむ」のタイトルに加え、～涼しげな布引の滝群や貯水池から夏の花咲くハーブ園へ～と「如何にも涼しげで気楽に行ける散歩コース」との触れ込みにしたのが功を奏したようで、つい参加される気になられたのか、集合場所である新神戸駅1階にはあきらかに近年の例会時より多いと思われる参加者がお集まりになられていたのである。



雄滝を眺めながら登る参加者

定刻通りにご挨拶・コースの説明・簡単な注意事項等を終え出発。予想はしていたが、好天に加え、第7波となるコロナの感染者拡大が異常に早く、今は山の空気に触れることが良薬？と思われて来られたのか、他にも大変多くのハイカーでごった返した登山道であった！

砂子橋を渡り先ずは「雌滝」へ。他のハイカーへの気配りも有り歩を進める。階段を登り詰めるとすぐ「鼓の滝」。ここも横目で見ながら「雄滝」を目指す。

いつも感じるのだがこのコースを歩くと、布引の溪谷は約100万年も前に起こった六甲変動の時期のものだそうだが、彫りの深さと固そうな岩盤の怪しいまでに滑り輝く美しさは、正に「日本三大神瀧」の一つと呼ばれるにふさわしいな～！と思うのである。



優美でしなやかな流れの雄滝と夫婦滝

「雄滝」は久しぶりにその優美な姿で私達を迎えてくれた。4日程続いた雨天により貯水池は放水線一杯までミネラルウォーターを貯め込んでいるのだらうと思われた。

こんな優美な瀧群と溪谷美に魅せられ、平安の昔から京に住む貴族をはじめとした多くの人がこの地を訪れて来たのであろう。その様子は伊勢物語等にも描かれており、数多くの和歌にも詠まれ、今に残っているのである。



ホッと一息！布引みはらし展望台にて

馴染みの「雄滝茶屋」を過ぎるとあと一息で1回目の休憩場所である「みはらし台」である。先頭で誘導し、トイレと休憩をアナウンスしながら参加者の多さに段々と不安になって来た。市民の会の山歩きとは言え、他府県から訪れるハイカーや観光客も大勢見えておられる。明らかに歩かれへんやないか！・どっちなに寄って歩け！！・など「苦情」を発せられるであろうと思った矢先、罵声を浴びせられたのである。他のハイカーからすれば当たり前のことであろうと、丁重にすみません！・申し訳ありません！！・とお詫びを申す以外に無く、同時に時間的なことも含め、コースの変更短縮を参加者に説明し、出発した。



木版画「神戸百景」川西 英画伯作布引溪谷/猿の架橋

現・猿のかずら橋/1939年9月制作（ネット画像より）

猿のかずら橋（旧名：猿のかけ橋）を過ぎると緩やかな散歩道となり、北野からハーブ園を結ぶ Gondola を溪谷の上に見て、谷川橋（重要文化財）を渡る。貯水池の放水路として設けられた通称：浅見の滝（現在は五本松かくれ滝の名称がついている）も、結構な水量で気持ちが良い。貯水池に上がると、やはり多くのハイカーが休んでいたのもそのまま橋を渡って先へ進んだ。やはり思った通り水量は満タンであった。



貯水池から続く奥ササ谷付近を通過

コースの変更は、市ヶ原経由でのハーブ園裏口入場をやめ、貯水池の北出入口となる場所から車道となるので、ここからハーブ園の「風の丘」の入口である峠へのショートカットコースとした。こちらはハイカーがいなく、ゆっくりと余裕をもって峠へ。

ここで約 30 分の自由時間を取り、ハーブ園内の散策などトイレ休憩を含め入園して頂いた。

ゴールのみはらし台へは、計画通りの 11 時 30 分に到着。参加印を押し、解散とした。

天 候 晴れ

参加者 317 名（内ヒヨコ会員 65 名）

*近年の例会で、最高参加数とのことでした。

一追記一

6 月初旬、中央区役所街づくり課の広報より取材にお越しになり「夏の過ごし方の一助として布引周辺のおすすめコースを含めてお聞かせ下さい」とのことので、おしゃべりさせて頂いた記事の中央区版です。

この記事は 7 月 21 日以降に目にしたもので、もう少し早く区民の目に入っていたらもっと多くの方が見られて、例会当日以上にうろたえたと思うと、ホッとしています。

ご参考まで。

